

2019年3月期決算説明会 質疑応答要旨

株式会社 平和

【遊技機事業】

Q1. 一般財団法人保安通信協会の型式試験における適合率が低下しているが、どのような対策をしているのか。

A1. パチンコ機、パチスロ機ともに適合率は厳しい状況である。その対策として、各メーカーはテスト申請による仕様の確認や申請数を増やす、などを行っている。今後は徐々に適合率は上昇していくものと考えている。

Q2. 遊技機の入替の特需は2021年3月期になると思うが、2021年3月期の見通しを教えてください。

A2. 適合率は徐々に上昇していくことから新規機種の機種数は揃えられと考えている。2021年1月末までには、必ず新規機種に入れ替えなければならないため、販売台数は2020年3月期より増加するとみている。

【ゴルフ事業】

Q3. ゴルフ場の取得について。毎期2、3コースのペースで取得しているが、今後もこのペースで取得していくのか。また、平和グループが取得可能だと考えるゴルフ場はどのくらいあるのか。

A3. 2019年3月期は2コース、2018年3月期は5コースを取得した。過去の実績をみると、年間2、3コースのペースとなっている。しかしながら、年間どのくらいのコースを取得していくという目標を持っているわけではない。今後も立地が良く収益が見込めるコースを取得していきたい。

また、取得可能なコースがどのくらいあるかについては、デューデリジェンスなどを行い実態の調査をしないと分からないため回答しかねる。

Q4. ゴルフ事業において、2019年3月期に発生した自然災害の被害が大きいようだが、2020年3月期の業績への影響はないのか。

A4. 2020年3月期の計画には織り込み済みである。

【その他】

Q5. 設備投資について。2018年3月期、2019年3月期、2020年3月期と額の振れ幅が大きい。2020年3月期は2019年3月期に比べて42億円増加するが、この理由は。

A5. 設備投資は、2018年3月期は141億円、2019年3月期は70億円の実績であり、2020年3月期では112億円を計画している。

2020年3月期は、遊技機事業における金型とゴルフ事業における被災コースの改修により増加している。2018年3月期はゴルフ事業においてハイエンドコース（「GRAND PGM」）や新規に取得したコースに対し投資を行ったこと、不動産取得のスキームを利用したゴルフ場の取得を行ったことにより投資額が増加した。2019年3月期はこれらの投資がないことから減少した。なお、2017年3月期も「PGM ゴルフリゾート沖縄」や「茨木国際ゴルフ倶楽部」などに積極的に投資を行ったことにより、140億円を計上している。

Q6. 2020年3月期における事業別の設備投資額を教えてください。

A6. 遊技機事業で44億円、ゴルフ事業で68億円。そのうち、被災コースへの投資として10億円を予定している。

Q7. 有利子負債が1,200億円あるが、返済も含めた借入金の考え方を教えてください。

A7. 有利子負債はここ数年、減少させている。極端に減少させることはしないが、今後も返済は進めていく考えである。ただし、返済のペースについては、借入の条件等をみながら進める。

Q8. IR（統合型リゾート）事業について。以前、北海道北広島市に対しIR開発を提案していたが、現状における平和のIR事業への考え方を教えてください。

A8. 当社は以前、北海道北広島市に対しIR開発を提案したが、同市がIR誘致を表明していないため、北海道北広島市におけるIR開発は難しいと考えている。IR事業については、資本参加を含めたあらゆる可能性を検討していく。

以上